



平成 20 年 1 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社ティー・ワイ・オー
代表者名 代表取締役社長兼グループ最高経営責任者
吉田 博昭
(J A S D A Q ・ コード番号 : 4358)
問い合わせ先 取締役兼グループ執行役員 経営戦略担当
上窪 弘晃
電 話 番 号 03-5434-1586

平成 20 年 7 月期中間（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年 7 月期中間（平成 19 年 8 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日）の業績予想について、平成 19 年 9 月 27 日付「平成 19 年 7 月期 決算短信」にて発表致しました業績予想を下記のとおり修正致します。

なお、本開示における決算数値等は監査法人による監査前数値であるため、監査後決算数値等とは必ずしも一致致しません。

記

1. 平成 20 年 7 月期中間（平成 19 年 8 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日）連結業績予想の修正

（単位：百万円）

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想（A）	12,800	700	500	100
今回修正（B）	14,500	700	530	230
増減額（B－A）	1,700	0	30	130
増減率（%）	13.3	0	6.0	130.0

2. 修正理由

当社グループは、事業戦略である独自の「マルチブランド戦略」（当社を事業持株会社とした多数の優秀なコンテンツ制作会社をグループ化する戦略）を実行し、新規会社設立及びM&Aによるグループ拡大を図っております。当連結会計期間におきましては、平成 19 年 10 月に株式会社円谷プロダクション（以下「円谷プロ」という。）をグループ化するなど、着実に当社グループの事業戦略を推進した結果、当初予想より業績が増加する見込みとなりました。

売上高につきましては、グループ各社の売上高が順調に推移したこと、並びに上記円谷プロの子会社化に伴い、当初予想より 1,700 百万円増の 14,500 百万円となる見込みであります。

営業利益につきましては、円谷プロの経営再建コストを当期において計上した結果、一時的に利益減少要因となったものの、グループ各社の貢献により当初予想通りの700百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、上述の営業利益における増減要因と、グループ各社の営業外収益を計上した結果、当初予想より30百万円増の530百万円となる見込みであります。

中間純利益につきましては、本日付け「バンダイナムコグループとの資本・業務提携に関するお知らせ」にて発表したとおり、当社グループとバンダイナムコグループとの資本・業務提携に伴う円谷プロ株式の一部譲渡により、連結で700百万円の特別利益を得た結果、当初予想より130百万円増の230百万円となる見込みであります。

なお、通期業績予想については現在精査中であり、詳細が確定次第速やかに発表いたします。

3. 平成20年7月期中間（平成19年8月1日～平成20年1月31日）個別業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想（A）	900	250	200	150
今回修正（B）	1,360	360	360	690
増減額（B－A）	460	110	160	540
増減率（％）	51.1	44.0	80.0	360.0

4. 修正理由

売上高につきましては、新規営業企画事業が好調に推移した結果、当初予想より460百万円増の1,360百万円となる見込みであります。

営業利益につきましては、コスト管理の徹底化を図った結果、当初予想より110百万円増の360百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、営業利益と同様であり、当初予想より160百万円増の360百万円となる見込みであります。

中間純利益につきましては、上述の通り円谷プロ株式の一部譲渡により、個別で650百万円の特別利益を得た結果、当初予想より540百万円増の690百万円となる見込みであります。

なお、通期業績予想については現在精査中であり、詳細が確定次第速やかに発表いたします。

5. ご参考：前中間期の実績（平成18年10月1日～平成19年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
連結	11,124	398	361	230
個別	5,300	210	450	400

※事業年度の末日を変更したため、前中間期は平成18年10月1日～平成19年3月31日までとなっております。

以 上